

「福井ふるさと元気宣言」推進に関する政策合意

私は、「福井ふるさと元気宣言」に掲げられた政策等を実現するため、次に掲げる施策・事業について重点的に実施することを西川一誠知事と合意します。

平成28年4月

福井県知事 西川 一 誠

福井県教育長 森 近 悦 治

28年度目標（30年度目標）

28年度の施策

1 人口減少に歯止めをかける徹底戦略

◇幸福度日本一福井へ 移住・定住戦略【部局連携】

○地場産業の宝庫・福井でチャレンジの夢ひらく

- ・県内企業と連携し、普通科系高校1年生600名がコースに分かれて県内の職場の魅力を知る機会を新たに設け、大学卒業後にふるさと福井で働く意識を高めます。

2 福井から人材育成

◇「ふるさと」を思うグローバル人材教育【部局連携】

○「ふるさと教育」の充実

- ・福井にゆかりのある100人の先人の特徴的な生き方を学ぶ教材について、全中学校・高校の授業等における活用を始めます。
- ・福井ゆかりの百人一首などを取り入れた県独自教材「古典音読・暗唱ノート（初版）」の全小・中学校における活用を始め、小・中学生が古典に触れる機会を増やします。

- ・白川静氏没後10年を記念し、白川文字学の全国唯一の展示発信の拠点である「白川文字学の室」を10月にリニューアルするとともに、博士ゆかりの著名人によるフォーラム等を開催します。
- ・立命館大学と連携し、資料の相互活用や共同研究等を行うとともに、白川文字学を活用した学校での漢字教育を推進するため、漢字指導者を養成します。(平成27年度 200人)

60人増 累計260人(累計300人)

- ・新たに教師や司書が薦めるふるさと文学、古典や名作を県内全小・中学校に巡回し、学校・図書館・家庭が一体となった県民の読書活動を推進します。
- ・本県ゆかりの企業経営者など「ふるさと先生」による授業を全ての高校に拡大していきます。(平成27年度 21校)

23校(26校)

○「使える」外国語教育の推進

- ・ 使える英語の力を育成するため、校内スピーキング評価と外部検定を活用します。

（平成 27 年度 英検 3 級相当以上を取得した中学生 42%

英検準 2 級相当以上を取得した高校生 42%）

中学生 45%（50%）

高校生 45%（50%）

- ・ 中学・高校の英語教員が外部検定試験を活用し、英語力の向上を図ります。
- ・ 小学校教員を対象に NHK 語学番組を活用した研修会を行います。
- ・ 中学校において、地域の観光地などふるさと福井のよさを英語で表現した PR カードを作成し、修学旅行等で国内外へ発信します。
- ・ ALT に対し、経験のある ALT による公開授業、日本人教員による日本語講座を実施するとともに、中学校の生徒との交流機会の拡充を進め、指導力を高めます。
- ・ 高校と大学が連携して中国語や中国経済等の授業を行うなど、中国語教育を進めます。

○福井から世界に挑戦

- ・ OECD イノベーションスクールによる海外高校との協働学習、県内外の高校生によるフィールドワークなど国際的な人材づくりを進めるとともに、サイエンスや国際に関する新学科の設置を検討します。

◇「福井型18年教育」の進化【部局連携】

○教育振興基本計画に基づく施策の推進

- ・知事と教育委員会による総合教育会議を開催し、教育大綱および教育振興基本計画に基づく施策を着実に実行します。

○幼児教育の充実

- ・5歳児から小学校1年生をつなぐ「福井県保幼小接続カリキュラム」を全ての小学校区で実践し、市町幼児教育アドバイザー、園内リーダーを養成します。

(平成27年度 市町幼児教育アドバイザー 29人
園内リーダー 148人)

市町幼児教育アドバイザー 17人増 累計 46人 (68名)
園内リーダー 100人増 累計 248人 (350名)

○「学力・体力」に加え社会参加を促進

- ・地域人材のコーディネート体制を新たに整備し、児童・生徒が地域の人々とともに、自ら企画・提案する体験学習を全ての小・中学校に拡大していきます。

28校 (258校)

- ・県立高校の教員に主権者教育研修会を実施します。生徒に対しては、副教材等を活用した学習を充実し、主権者としての自覚を促すとともに判断力および意思決定力を育成します。
- ・高校の生徒会が地域貢献活動の情報を収集して校内において周知し、参加を促進する仕組みを整備します。

○高校の学力向上

- ・新たに県独自テストを実施するとともに、数学や理科の授業内容を整理し、授業において大学入試問題の実践的な演習を始める時期を早めるとともに、授業後などにおける個別指導を強化します。
- ・選択問題および外部検定試験を活用した英語スピーキング・テスト導入など、高校入試制度の見直しについて方針を決定します。
- ・福井県大学進学サポートセンターを設置し、高校を卒業した生徒に対する学習指導や進学相談を行い、大学進学を支援します。

○教員の授業力・指導力の向上

- ・県立高校の教員と教育研究所が連携して新たに県独自テストを作成・実施し、結果の分析を踏まえた授業改善を進めます。
- ・教育研究所、関係課等による検討会を設置し、双方向型の通信研修の導入や訪問研修の充実、若手教員の育成の強化など研修の見直しを行い、平成29年度からの教員研修に反映させます。
- ・高校における進学指導など実績ある退職教員の活躍の場を広げるとともに、**若手教員が参加した自主的な研究グループ**を増やし、授業力の向上を図ります。

(平成27年度 21グループ)

50グループ (50グループ)

- ・教育研究所の移転に合わせ、「ふくい教育」に関する情報発信を強化するため、「教育博物館」を整備します。
- ・部活動指導のあり方や校務事務の進め方などについて方針を決定し、各学校に徹底するとともに、地域人材の活用による学校業務の効率化を進め、教員の指導力向上につなげます。

○職業高校の新カリキュラム・産業教育プログラム

- ・職業系高校の生徒の資格取得、コンクール入賞および企業実習等の成果を得点化し、**福井フューチャーマイスターとして認定**を始めます。
(平成 27 年度 ー)

800 人 (900 人)

- ・若狭東高校において、薬草の産地化や大規模施設園芸に対応できる教育を進めるとともに、福井農林高校、坂井高校において、栽培に加え、加工や流通など経営の学習を行うための施設整備を進めます。

○児童・生徒はみんな笑顔に

- ・いじめへの対応事例の共有と徹底を進め、いじめの未然防止、調査の充実による早期発見、「サポート班」の組織的な対応による**早期解消**など**いじめ対策**を進めます。
(平成 27 年度 いじめの年度内解消率 95.5%)

いじめの年度内解消率 96% (97%)

- ・特別支援学校の生徒の職場実習や職業教育に協力する「就労サポーター企業」制度の新設や学校ジョブコーチによる実習支援などにより、**特別支援学校生徒の一般就労率**を高めます。
(平成 27 年度 32.9%)

33.5% (34%)

- ・小・中学生と特別支援学校の児童・生徒と一緒に学ぶ交流および共同学習について、特別支援コーディネーターによる事例紹介や研修会により教員の障害理解を進め、拡大していきます。

◇学校の再編・統合

○県立高校の次なる再編に道筋

- ・丹南地区・二州地区の県立高校再編を進めるため、地元関係者等から就職状況や人材育成の方向性について情報を収集し、年度内を目途に両地区に再編検討委員会を設置します。

3 先進的な医療と福祉、健康長寿のふるさと貢献

◇県民の健康サポート・システム【部局連携】

○子どもの目と歯・生活の健康

- ・全小中学校において、目を休める時間を設けるとともに、目の動きをスムーズにする運動を実施し、近視予防につなげます。

- ・歯科医師会の協力の下、全小学校において「正しい歯みがき教室」を開催するとともに、全ての1年生、4年生に対する歯の二次検診を実施し、正しい歯みがきの定着とむし歯治療を促進し、**むし歯のない小学生を増やします。**(平成27年度 68.4%)

70% (73.6%)

- ・小学校に加え、新たに中学校の全生徒に対し、歯垢染色剤を活用した歯みがき指導を実施し、歯みがき習慣の定着を図ります。

- ・スマートフォン依存の実態を理解し、依存からの脱却や活用について話し合う「脱スマホ高校生サミット」を開催するとともに、**全中学校において生徒の自主的なルールづくりを進め、インターネットの適正利用を推進します。**

(平成27年度 実施校割合 79.7%)

中学校 100% (100%)

- ・子どもに正しい生活習慣を身に付けさせるため、新たにPTAと連携した研修を始め、家庭の教育力を高めます。

4 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ

◇「ふくい食ブランド」を地消・外商【部局連携】

○日本で一番おいしい学校給食

- ・新たに作成した食育教材を活用し、小・中学校における食育の授業を増やし、地域の食べ物や食事、朝食の大切さなどについて理解を深めます。
- ・栄養教諭がプロの料理人等の協力を得て、地場産食材を使ったおいしいメニューを開発し、調理従事員の研修を行い、学校給食において提供します。
- ・学校給食調理コンテストを開催して、児童・生徒の食への関心を高めるとともに、学校給食甲子園等の全国大会において上位入賞を目指すことにより、本県給食のレベルアップを図ります。

5 高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略

◇観光フロンティア・福井【部局連携】

○観光人材の育成

- ・商業系高校の観光授業において、地域の観光資源を発見するフィールドワークを行い、高校生の視点から魅力ある観光プランを発信します。
- ・旅行業者等の外部専門家による授業を拡充し、観光に関する興味・関心を高め、地理検定などの取得を支援します。

6 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に

◇県民総参加の福井国体【部局連携】

○競技力を高め「優勝」の実現

- ・今年度の岩手国体で10位台前半の成績を達成するため、オリンピック出場経験のある指導者などから直接指導を受ける機会を増やすとともに、強豪チームとの練習会を充実します。

10位台前半（優勝）

- ・「スポジョブふくい」等により日本代表級を含めた有力な選手確保を進めます。さらに、実業団等の一線で活躍している本県出身選手に福井国体に選手として出場してもらえるよう交渉を進めます。

（平成27年度 62人 累計110人）

60人増 累計170人（累計200人）

- ・福井国体において、少年種別の中心となる高校1年生の選抜チームを編成し、県外遠征やケアトレーナーの活用などによる強化を進めます。

◇「スポーツ福井」の実現

○子どもから大人まで気軽にスポーツ

- ・国体デモンストレーションスポーツなど気軽に参加できるスポーツイベントを全市町において開催するとともに、冬季に屋内スポーツ体験会を開催します。

（平成27年度 17市町計25回）

17市町計29回（17市町計34回）

◇ 福井の文化をもっと身近に【部局連携】

○文学館の新展開

- ・本県出身の作家や、福井を舞台にした歴史小説をテーマにした企画展を開催するとともに、直木賞作家等による講演会等を切れ目なく開催し、県民の文学への関心を高めます。
- ・著名作家や編集者が指導する「ふくい文学ゼミ」を引き続き開催するとともに、ゼミ修了者による文芸サークルを結成し全国規模の文芸賞に応募するなど、県民の文芸創作活動の輪を広げます。
(平成 27 年度 28 人)

文学ゼミ修了者数 20 人増 累計 48 人 (累計 50 人)

○子どもの文化・芸術活動

- ・弦楽クラブを設置する学校へのプロ奏者による技術指導を充実させ、複数地区の児童・生徒による合同練習会や合同演奏会を増やすなど、小中高校における弦楽奏者を育成します。
(平成 27 年度 155 人)

170 人 (200 人)

- ・小学校で墨と越前和紙を活用した授業、中学校・高校で越前和紙と日本顔料等を活用した授業を実施し、高校を中心に研究推進校を拡充します。(平成 27 年度 35 校)

37 校 (41 校)

○「こども歴史文化館」の充実と入館者アップ

- ・福井の先人と教科書に書かれた通史との関係をわかりやすく解説する資料を充実し、学校等の団体利用を促進するとともに、福井の歴史・文化に関する出前講座を積極的に行います。
(平成 27 年度 54,291 人)

55,000 人 (60,000 人)

◇ 福井が誇る歴史遺産の発信【部局連携】

○ 国宝・重文の指定迅速化

- ・ 建造物、祭り、古文書などの文化財の指定を推進し、観光やまちづくりにおける活用につなげます。(平成 27 年度 11 件)

12 件増 累計 23 件(累計 40 件)

- ・ 丸岡城の国宝指定を目指し、坂井市が行う建築年代の特定や構造的特徴を明らかにするための調査等を支援します。
- ・ 地域の代表的な伝統的建造物を調査し、建造物群の文化財の登録を推進します。